

## ●●● 「共生社会」の実現を目指して ●●●

特別支援学校教育担当課長 山本 優

発達障害を含め、障害のある人が学校や地域、社会で適応していくためには、障害がない人の理解と協力が不可欠です。

障害のある人の中には、学校を卒業して就職しても、仕事や職場の人間関係に馴染むことができずに退職してしまう人がいます。そのような場合、再就職は極めて難しく、ひきこもり状態になってしまうケースも少なくありません。

障害には様々な種類があり、その程度や状態も一人一人違います。障害のない人が初めて障害のある人と接する時、「怖い」とか「汚い」とか、「自分たちとは違う」ことに違和を感じる人もいるでしょう。でも、そこが出発点です。人と人が理解し合うためには時間が必要です。障害のある人とない人との交流も「場数を踏む」ことが大事であり、「慣れが違和感を克服する」時間が必要なのです。

以前、ある中学校の文化祭で、通常の学級の生徒達が特別支援学級の劇に友情出演して盛り上げているという話を聞いたことがあります。放課後に一緒に練習をしたり、大道具や衣装を一緒に作ったりして、本番終了後には、互いに抱き合って最高の笑顔で成功を喜び合っているそうです。

一緒に過ごす時間が長いほど、人は互いの内面を知るようになります。障害のある人とのふれあいも、「場数」が増えるに従って当初感じた「違和感」はいつの間にか消え去り、「自分たちと同じ」人間として相手の存在を感じるようになるのだと思います。「障害者」ではなく、「〇〇君」・「〇〇さん」という一人の人間として。そして、「仲間」として。

文化祭で友情出演してくれた中学生がやがて大人になった時、彼らの理解と協力により、障害のある人がしっかりと社会参加を果たしている世の中になっているとうれしいです。それが、私たちの願いです。平成 27 年度より、都立特別支援学校の小・中学部に在籍する全ての児童・生徒が「副籍」を持つようになります。それぞれの地域で、充実した交流が展開されることを期待しています。

### 目次

- 教員用パンフレットと保護者用パンフレットを配布します！ ..... 2
- 「理数教育の窓」理数好きの子供たちを育てるために ..... 4
- 「特別支援教育の窓」～全ての学校で実施する特別支援教育の推進を目指して～ ..... 6

東京都教育委員会ホームページ内に「学び応援ページ」というコーナーがあるのを御存知ですか？

「学び応援ページ」には、各学校が、指導内容や指導方法等の工夫を通して、授業の改善・充実を図ることを応援するための、様々な事例集や報告書等を掲載しています。ぜひ、御覧いただき、参考にさせていただければと思います。なお、本通信のバックナンバーも、順次「学び応援ページ」に掲載しています。

（東京都教育委員会ホームページアドレス

<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/>）

**学び応援ページを御活用ください！**

**東京ベーシック・ドリルも  
掲載しています！**

東京都教育委員会ホームページ・トップページ  
の下の方に、このバナーがあります！



★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を御入力いただき、[S9000024@section.metro.tokyo.jp](mailto:S9000024@section.metro.tokyo.jp) へメールを御送信ください。

# 教員用パンフレット「授業改善のポイント《小学校》《中学校》」と 保護者用パンフレット「学びを支えるスクラム《小学校》」を 配布します！

いよいよ新年度が始まります。

東京都教育委員会は、平成26年度「全国学力・学習状況調査」「児童・生徒の学力向上を図るための調査（都独自の調査）」の結果を基に、授業改善のためのポイントをまとめた**教員用パンフレット**と、家庭での取組を促進するための**保護者用パンフレット**を作成しました。今回はその内容を御紹介します。



## 教員用パンフレット「授業改善のポイント～確かな学力の定着と伸長を目指して～」

《小学校》表紙



《小学校》裏表紙



「授業改善のポイント」は、教員対象に作成したパンフレットです。

全国調査と都調査の両方について、調査問題のねらいや誤答の要因、指導の充実のための手だて、学年を超えて「立ち戻る」ための指導例などを掲載しています。

4月からの更なる授業改善のために、是非御活用ください。

《中学校》都調査 教科のページ（英語）



ページ左側には、都の調査問題の中から「教科書の例題レベル」の問題を紹介しています。問題を間違えた子供がどこに立ち戻ればよいか、どのように指導すればよいか、具体的に解説しています。ページ右側には、「読み解く力を育む指導の充実」のための手だてを紹介しています。

《中学校》全国調査 教科のページ（数学）



国語と算数・数学については、「全国学力・学習状況調査」の問題や課題、解決のための具体的な指導例を紹介しています。

児童・生徒の「学習したことを活用する力」を育成するための手掛かりとして、本パンフレットを御活用ください。



# 保護者用パンフレット「学びを支えるスクラム」

「学びを支えるスクラム」は、平成27年度新5年生の保護者に向けて作成したパンフレットです。調査の目的や内容について御理解いただくとともに、現時点でお子さんに4年生までの学習が定着しているかを確認していただくことができる内容となっています。

【表紙】

表紙では、「教科書の例題レベルの問題を全ての子供がクリア」「教科書の練習問題レベルまでの問題を達成する子供の増加」という2つの目標について、正答数分布のグラフを基に説明しています。

裏表紙「日々の生活から学びを見つめ直してみよう」では、意識調査から分かった『生活習慣と学力の定着の関係』の項目を紹介しています。

【裏表紙 家庭の取組紹介】

【教科書のページ】

調査問題の内容が理解できるようになると、今後の学習にどのように活かされるかを紹介するとともに、できなかった問題をできるようにするための東京ベシック・ドリルのページの紹介もしています。

教科書のページには、平成26年度の都調査問題の中から「教科書の例題レベル」の問題を紹介しています。保護者とお子さんと一緒に確認することで、知識等の定着度が分かります。

平成26年度正答率(参考)と誤答の原因と思われることを明記しています。誤答の要因を確認すると、どのような問題に取り組みればよいのかが見えてきます。

教員用パンフレットを活用して、児童・生徒の学力の特徴や傾向に合わせた具体的な指導を考え、日々の授業を充実させましょう。小学校の保護者用パンフレットは、年度初めの保護者会などで説明を加えて配布し、家庭学習に活用してもらうことで、家庭との連携を図ることができます。上手に活用して、児童・生徒の学力向上を目指しましょう！



# 「理数教育の窓」 —理数好きの子供たちを育てるために—

## 理数フロンティア校（小・中学校）の2年間の取組について

東京都教育委員会では、理数教育の充実に向けて、様々な取組を実施しています。  
今回は、今年度で終了となる「理数フロンティア校」の取組と成果の一部を紹介いたします。

### 理数フロンティア校の概要について

- 1 指定校数 小学校 50 校、中学校 50 校（原則として各区市の小学校 1 校、中学校 1 校）
- 2 指定期間 平成 25 年度から平成 26 年度までの原則 2 年間
- 3 実施内容
  - (1) 効果的な教材、指導方法の開発
  - (2) 指導力向上のための教員研修（授業公開と協議など）
  - (3) 理数教育地区公開講座の実施（保護者等を対象とした授業公開と理数教育に関わるワークショップや講演会、意見交換会等を実施）
  - (4) その他（サイエンス・サポーターの活用、大学・企業との連携など）

### 効果的な取組について

#### ☆江東区立南陽小学校（指導方法の開発・工夫）

学校全体で同じ形式のノート記録を行うよう、掲示物やプリントを使って指導したことにより、児童は、問題解決の過程に沿って記録することができるようになった。

**問題** 食塩を水にとかすと重さは変わるのだろうか

**予想**

①かわる。軽くなると思う。  
②食塩はとけると見えなくなるから、その分軽くなるのではないか  
③重さをとかす前と後でくらべればかわったかわかるだろう。  
＜みんなの意見＞  
①かわらない・・・25      ②軽くなる・・・6

**実験**

とかす前の食塩+水と、とかした後の食塩水の重さを比べてみる。

50g + 10g =

**結果**

自分たちの結果  
水50g + 食塩10g = 食塩水60gになった

班	1	2	3	4	5	6
食塩水の重さ	60	60	59	60	58	60
重さかわる?	×	×	△	×	△	×

かわる=○    かわらない=×    ほどかわらない=△

**考察**

①ほかの班の結果を見ると、ほとんどの班がとかす前と後の重さが変わらなかった。  
②私は軽くなると思ったけど、変わらないのだと思う  
③重さは変わらない  
④たとえば水300gに100gの砂糖をとかすと400gの砂糖水ができる

**結論**

食塩を水にとかしても重さは変わらない。食塩は見えなくなっても重さはそのままある。

#### ☆新宿区立西戸山中学校（理数教育地区公開講座）

最先端技術を駆使した医療（人工心臓）についての講演会を、生徒、保護者、地域向けに実施した。医学と最先端技術という、難しいと思われる内容であったが、映像を用いるとともに、講師自身の生き立ちや経験を織り交ぜた説明によって、参加者は、十分に理解することができた。



講演会の様子



### ☆武蔵野市立第三中学校（教材の開発・工夫）

科学への興味・関心を高めるため、身近な材料で自作教材を開発した。  
自作教材を授業に多く取り入れたことで、生徒は意欲的に学習活動に取り組むようになった。



植物の蒸散実験器



月の満ち欠け実験器



立体天気図



血液の循環モデル

### ☆小金井市立緑中学校（ゲストティーチャーの活用）

東京学芸大学と連携し、大学教員がもっている指導方法と指導理論に中学校教員のアイデアを加味して、中学生が興味をもつ観察・実験方法等を開発した。例えば、第1学年「地層と堆積」では、あらかじめ混ぜておいた、粒子の大きさによって色の異なる砂を塩ビパイプの水の中に投入し、地層のでき方について理解する観察方法を開発した。

開発された観察・実験方法等により、授業の幅が広がり、生徒は学習内容についてより深く理解することができるようになった。



第1学年「地層と堆積」

### ☆稲城市立第四小学校（サイエンス・サポーターの活用）

サイエンス・サポーターと教員が打ち合わせをしたり、連絡票や職員室の伝言板を活用したりして、授業の進め方や実験に必要な物、児童に提示する資料を確認し、準備や授業中の支援等を行った。その結果、観察・実験の内容が充実するとともに、授業中の児童への指導もきめ細かく行えるようになった。

また、サイエンス・サポーターは、理数教育地区公開講座における理科の授業への支援、ワークショップの企画・準備等も行った。



理数教育地区公開講座  
ワークショップ

## 取組の成果について（一部紹介）

「理科の授業の内容が分かる」と回答した児童・生徒

	都内公立学校 (平成26年7月)※1	理数フロンティア校 (平成26年6月)※2
小5	92.3%	94.7%
中2	72.7%	76.3%

「理科や数学、科学技術に関係する仕事に就きたい」と回答した児童・生徒

	都内公立学校 (平成26年7月)※1	理数フロンティア校 (平成26年6月)※2
小5	42.8%	56.6%
中2	27.8%	39.0%

※1：平成26年度児童・生徒の学力向上を図るための調査 児童・生徒質問紙調査より

※2：平成26年6月 理数フロンティア校の現状を把握するための調査より

今後、理数フロンティア校の取組の詳細について取りまとめた冊子を各小・中学校に配布します。また、東京都教育委員会のホームページにも掲載します。  
各学校での理数教育の推進に、ぜひ御活用ください。

# 「特別支援教育の窓」

— 全ての学校で実施する特別支援教育の推進を目指して —

「学校生活支援シート(個別の教育支援計画)」を、**引継ぎ**のツールとして有効に活用しましょう。



保護者からこんな声はありませんか？

- ・ 後戻りすることなく、子供の「今」を大切にしたい学校生活をスタートしてほしい。
- ・ これまでに効果のあった指導や支援を続けてほしい。
- ・ 関係機関との連携を続けるために、必要な情報を確実に引き継いでほしい。

「一貫性のある支援」への期待

◆ 都教育委員会は、従来の「個別の教育支援計画」から、新たな「学校生活支援シート」へと書式を変更しました。平成27年度入学生より、移行を開始します。

## 「学校生活支援シート」の主な特長

### ① 親しみやすい名称

教員や、本人及び保護者にとって親しみやすく、作成・活用の意義や役割をイメージしやすい名称としました。

### ② 本人及び保護者が記入しやすい項目

本人や保護者の立場で記入しやすいように、分かりやすい項目を設定しました。

### ③ 引継ぎに重点を置いた項目

指導や支援の成果、児童・生徒本人の変化、有効であった支援の手だて等、引継ぎを効果的に実施できる項目を設定しました。

学校生活支援シート (個別の教育支援計画)		
このシートは、お子さんの学校生活を円滑にするために、保護者と学校、関係する様々な立場の人の、お子さん本人との協力によって作成していく仕組みです。関係するすべての関係者が、お子さんの学校生活を円滑にするために、学校での学習や生活について、一緒に考えたいと考えています。		
フリガナ	姓	名前・姓
氏名		
学校	校務室	
学年	担任	
1 学校生活への期待や保護者の願い(この学校でやりたいこと、どんな学校(先生)にあってほしいこと)		
本人の志		
保護者から		
2 現在のお子さんの様子(通学状況・通学していること、学びの様子)		
3 支援の目標		

■ 「学校生活支援シート(個別の教育支援計画)」の作成と活用のキーワードは

「つながり」

と

「安心」

です。

「学校生活支援シート」を活用して引継ぎを行うことにより、「教員(学校)と保護者」、「必要な指導や支援の手だて」、「本人及び保護者間の思いや願い」、「子供に関わる人と人」をつなぐことができます。

それに加えて、保護者が参画した引継ぎ会を実施することで、入学時や進級・進学時等の本人及び保護者の不安を軽減・解消することが大切です。

「引継ぎの充実」を図ることで、保護者に「安心」してもらうことが重要です。

東京都教育委員会は平成26年3月に、学校生活支援シートの開発について冊子「これからの個別の教育支援計画」をまとめました。冊子や様式データは東京都教育委員会のHPをご参照ください。

